

ジプシーのとき (1989)

TIME OF THE GYPSIES
DOM ZA VESANJE

メディア 映画

ジャンル ドラマ コメディ

製作国 ユーゴスラビア

色彩 Color

時間 126分

初公開日 1991/04/27

公開情報 ヘラルド・エース=ヘラルド

【キャッチコピー】

漂泊の民 ジプシーがたどる 夢と幻の日々

【解説】

「パパは、出張中！」で'85年カンヌグランプリを獲得し、'95年にも「アンダーグラウンド」で同賞を受賞した、世界で最も独創的な映画人の一人であるクストリツァの3作目。彼の作品の根源を窺わせる、ジプシーの暮らしを描いて感動的な叙事詩となっている。用いられる言葉もジプシーのロマニ語で、監督は共同脚本のミヒッチと共に彼らの居住区に住み込んで取材を行い、その生活感の掌握は絶妙。出演者も大半は本物のジプシーである。旧ユーゴのジプシー村。粗末な祖母の家で足の悪い妹と放蕩者の叔父メルジャンと暮らすペルリンは、美しい娘アズラに恋したが、貧しい彼との結婚に彼女の母は猛反対。ある日、アーメドを頭とするジード兄弟が村に帰ってきた。その夜は大パーティ。村一番の金持ちの彼らは悪事をして稼いでいた。メルジャンも彼らのカード賭博のカモにされ借金を背負う。祖母の魔術がアーメドの息子を急病から救ったことで、彼は妹の足を治すことを約束。ペルハンも同行して町の病院に向かった。が、病院に妹を入れると、アーメドは無理やり、ペルハンをイタリアへ連れていき、悪事の手伝いをさせる。が、故郷に久々に帰ると、アズラは妊娠しており、アーメドが条件にした家は建っていない、ペルハンは何も信じられない。が、アズラとは結婚することになる。その夜、新妻は花嫁衣装のまま子供を産み、息絶えた。彼はその子を我が子として受け入れられない。そして、妹を病院に訪ねるが、彼女は行方不明。ペルハンは妹との再会を胸に誓い、イタリアに戻るが……。歌舞伎やオペラに近いような物語は最後、アーメドに復讐せんと彼の結婚式に乗り込むペルハンが魔力を奪う、祝祭と呪術的空間の進出でピークに達する。その素晴らしさは是非とも、ご自分の目で確認されたい。

【クレジット】

監督	エミール・クストリツァ	Emir Kusturica
製作	ミルザ・バシッチ	
製作総指揮	ミラン・マルティノヴィッチ	
脚本	エミール・クストリツァ	Emir Kusturica
	ゴルダン・ミヒッチ	Gordan Mihic
撮影	ヴィルコ・フィラチ	Vilko Filac
美術	ミリアン・クレカ・クリアコヴィッチ	Miljen Kreka Kljakovic
音楽	ゴラン・ブレゴヴィッチ	Goran Bregovic
出演	ダボール・ドゥイモビッチ	
	ボラ・トドロビッチ	